

一般社団法人はなそう基金 2017年度12月末決算

2018年3月31日

一般社団法人はなそう基金

代表理事 古森 剛

2017年度 決算について

「一般社団法人はなそう基金」を応援して下さっている会員及びパートナーの皆さま、いつもありがとうございます。

おかげさまで、当基金は2018年3月6日に設立満6年を迎えることができました。当基金設立の原点となった陸前高田市における英語音読会の活動開始からは6年と5ヶ月、東日本大震災の発災からは7年が経過しております。当時生まれたお子様が小学生になり、小学1年生が中学生になり、中学1年生は高校を卒業するほどの時が流れました。

東北被災地の復興の現況は、端的に表現すれば「ハードの進捗、ソフトの混迷」という印象です。都市インフラ等のハード面での再建・整備は、地元内に様々な軋轢を生みつつも前進しており、月ごとに変化が感じられます。一筋縄ではいかない難題が山積し、必ずしも予定通りには進まない中で、多くの方々の献身があつてこそその前進だと思えます。

一方、人の心やコミュニティ、カルチャー、経済活動などのソフト面での変化は、非常に複雑な状況になっています。長きにわたる仮設住宅生活から公営住宅や新規住居などへの移転が進んでいますが、それがまたコミュニティの希薄化を生み、孤立化する個人の姿もあります。コミュニティは震災と復興移転で二度分断されることとなります。

経済面の課題も大きくのしかかっています。復興事業が生む巨大な需要で地元経済は助けられています、それが長期的な復興につながるためには、地元内部でのリーダーシップや多くの人々の協働が必要です。個別には様々な形で地元発の新しい取り組みが生まれており、今後の活躍・発展への希望の種となっています。

東北被災地への社会的関心は、時間の経過とともに希薄化していきます。その後もこの世界には様々な災禍があり、多くの人々が理不尽な境遇に苦しんでいます。社会貢献の対象は東北被災地に限らず世界各地に広がり続けており、その陰で補助金の枯渇や寄付の低迷でひっそりと幕を閉じる東北被災地関連活動も毎年耳にします。

そうした中、当基金は多くの方々に支えられて、今日でもまったく色あせることなく活動を続けることが出来ております。陸前高田の英語音読会は常時70～80名程度の登録者があり、毎月40名前後が参加。英語学習への意志ある地元の方々にご活用いただいています。ボランティア講師の輪は広がり続け、東京でのチャリティー英語音読会も好評です。

会員相互の接点も増えてきており、東北被災地への思いを共有する人間同士で日常の趣味や取り組みで更につながりあう場面も増えています。幸せ感のある場がそこかしこに生まれています。これまでの6年以上に及ぶ継続的な活動が皆さまの応援で可能となったことに心より感謝しつつ、2017年度の決算概要についてご報告いたします。

2017年度 決算について

2017年度の決算は、収入が約420万円、支出が約310万円で、約110万円の黒字で締め括りました。収入の9割以上が個人及び法人・団体の皆さまからの寄付金であり、寄付金総額は過去6年間で最高となる399万円となりました。ただし、今年度に関しましては個人の会員様から一括で100万円という多額のご寄付がありましたので、その要素を除くとほぼ収支均衡というのが2017年度の基礎的な財務体質と言えるでしょう。

寄付金に関しましては、金額の多寡を問わずすべてのご寄付に込められたお心を有難く感じております。思いを込めて一度だけご寄付をされる方もあります。一括で多くの金額をご寄付頂く場合もあります。長年にわたり継続的にご寄付を頂いている場合もあります。毎月3,000円～6,000円をご寄付頂いている方々、毎年決まった月柄に1万円～10万円の単位でご寄付頂いている方々など、それぞれに思いを込めてそれぞれの方法で応援を頂いております。

最近では「RUN for はなそう基金」「女性ウイスキーの会」の皆さまのように、何らかの私的活動を共有する方々が集まって、チャリティー形式でご寄付を頂く機会も増えてきました。また、東京でのチャリティー英語音読会をモデルにして、ボランティア講師の方がご自分の地元地域で同種の取組みを始める動きもあります。あるいは、会員の方が参加されたイベント等の場で若干余剰が出た際に、当基金にその分をご寄付頂くようなパターンも生まれています。

2017年度において寄付金全体への比率が大きかった、法人・団体(有志の集まりも含む)からの寄付は以下の通りです：

- ・「チャリティー “ほろ酔い” 英語音読会」の参加者からの寄付、および合宿からの寄付： 約47万円
- ・「RUN for はなそう基金」(任意の当基金支援型ランナー団体)からの寄付： 約20万円
- ・MERCER Japan / MARSH Japan における企業クローズド形式のチャリティー英語音読会： 約18万円
- ・スペイン・バルセロナの日本文化スクール、bonsaikebanaの皆さまからのご支援： €420(約5.5万円)

なお、上記に挙げさせて頂いた法人・団体からの大型の寄付を足しても寄付金全体の約2割強ですので、当基金の財政面がいかに一つ一つのご寄付の積み重ねで支えられているかが伺えます。公的機関や他の非営利団体からの補助金等も受けておらず、純粋に個人や法人・団体の皆さまの東北被災地を思う心、「役に立てたらいいな」という思いと行動が集まって、当基金の活動が6年の間成り立ってきました。これは、本当に素晴らしいことだと思います。

すべてのご支援と、その背景にある皆さまの思いやお心に、当基金を代表して感謝の意をお伝え致したいと存じます。

2017年度 決算について

費用面では、2016年度に始めた新しい取り組み、「まるごと英語で夏祭り in 陸前高田」に関わる費用(約200万円)が最大のアイテムとなりました。2回目となる2017年度は100名規模の参加者がある大型イベントとなり、各種運営費もその分発生し、会場となった二又復興交流センター(陸前高田市矢作町)の場内交通整理や駐車場管理などを地元の警備会社に委託するなど一部で外注費用も発生しました。

その他の主要な経費投入先は、以下の通りです。

- ・「Komo's英語音読会@陸前高田」に関わるガソリン代・高速代： 約50万円
- ・三陸訪問ツアーやイベント開催に関わるレンタカー代等： 約14万円(上記「夏祭り」時のレンタカー代は除く金額)
- ・陸前高田における地元交流・懇親会等： 約12万円

他に、「Komo's英語音読会@陸前高田」の会場使用、英語音読会参加者向けの不定期の印刷物送付、ウェブのメンテナンス、三陸鉄道イベント、クレジットカード寄付関わる諸手続き及び手数料、租税公課 等があります。印刷物関係では、2017年に参加したボランティア講師全員を対象に陸前高田の英語音読会参加者向けのメッセージを募集し、集まった多くのメッセージを小冊子形式にして年末に送付しました。

なお、経費は必ずしも一方的に支出になるものばかりではありません。陸前高田を往復する基金代表車のガソリン代や高速道路代は、同乗したボランティア講師から別途定額の寄付を頂くことで間接的・部分的に相殺されます。現地懇親会等の費用も、適宜参加費を頂くことで部分的に回収しているものもあります。

当基金として7年目となる2018年度も、地道に着実に継続的に、東北被災地の現実の人間社会に向き合いながら、活動の充実へと取り組んで参ります。当基金の活動がより広がり、深まって、東北被災地の方々も応援する方々もつながりあって、あたたかいご縁が育まれていきますように…。

皆さまの引き続きのご支援を、心よりお願い申し上げます。あの、当基金の各種活動内容につきましては、随時ウェブサイト(<http://www.lets-talk.or.jp/>)やFacebook(<https://www.facebook.com/letstalk.hanasokikin/>)に公開させていただいております。是非ご覧いただければと存じます。

2018年3月
一般社団法人はなそう基金
代表理事 古森 剛

2017年度 貸借対照表

2017年12月31日 (単位:円)

資産の部		負債の部	
【流動資産】	4,367,967	【流動負債】	311,846
現金及び預金	4,362,458	未払金	311,846
商品	5,509	【固定負債】	1,019,620
		長期借入金	1,019,620
		負債の部合計	1,331,466
		純資産の部	
		【株主資本】	3,036,501
		利益剰余金	3,036,501
		その他利益剰余金	3,036,501
		繰越利益剰余金	3,036,501
		純資産の部合計	3,036,501
資産の部合計	4,367,967	負債及び純資産合計	4,367,967

一般社団法人はなそう基金の運営は、その活動の性質上特に大きな資産や負債を保有するものではありません。基本的には、流動資産(現金及び預金)が資産の大半を占め、「商品」として計上されているものは書籍・冊子等の在庫分です(それ自体も毎年必ず発生するものとは限りません)。また、負債の大半は創業時に設立時社員(代表理事 古森 剛)が無担保・無期限で融資したもので、その他は会計処理タイミングにより生じる未払金等となります。

2017年度 損益計算書

2017年1月1日～12月31日（単位:円）

【売上高】		
売上高	474	
売上高合計		474
【売上原価】		
期首商品棚卸高	5,509	
合計	5,509	
期末商品棚卸高	5,509	
商品売上原価		0
売上総利益金額		474
【販売費及び一般管理費】		
販売費及び一般管理費合計		3,061,864
営業損失金額		3,061,390
【営業外収益】		
受取利息	163	
雑収入	4,194,683	
為替差益	18,223	
営業外収益合計		4,213,069
【営業外費用】		
為替差損	2,059	
営業外費用合計		2,059
経常利益金額		1,149,620
税引前当期純利益金額		1,149,620
法人税等		70,000
当期純利益金額		1,079,620

一般社団法人はなそう基金の運営においては、「売上高」「売上原価」「売上総利益」のカテゴリに含まれるものは書籍・冊子等の販売に関わるものです。税法的には、この部分が営利事業に関わる売上関連項目となります。これらに紐づく販売費・一般管理費を最引いたものに関して、応分の税金を納めております（非課税事業がマイナス収支でも、別個に課税）。当基金における最大の収入項目は寄付を主体とする雑収入であり、こちらは非営利事業に関わるものとして非課税の扱いとなります。

2017年度 販売費及び一般管理費内訳

2017年1月1日～12月31日 (単位:円)

旅費交通費	676,398
通信費	20,482
事務用消耗品費	4,212
支払手数料	115,081
車両費	266,492
租税公課	822
雑費	1,978,377
販売費及び一般管理費合計	3,061,864

当基金の当期における販売費及び一般管理費の内訳における最大の項目は、2016年度に始めた新しい取り組みである「まるごと英語で夏祭り in 陸前高田」に関わる費用(約200万円)です。2回目となる2017年度は100名規模の参加者がある大型イベントとなり、各種運営費もその分発生し、会場となった二又復興交流センター(陸前高田市矢作町)の場内交通整理や駐車場管理などを地元の警備会社に委託するなど一部で外注費用も発生しました。その他の主要項目としましては、「Komo's英語音読会@陸前高田」に関わるガソリン代・高速代(約50万円)、三陸訪問ツアーやイベント開催に関わるレンタカー代等(約14万円)、陸前高田における地元交流・懇親会等(約12万円)などがあります。